

 入力・蓄積・出力
 

学習指導係長 野 中 定

となりに、間取り4部屋の社宅がある。



やまださんが越してきて、しばらく経つ。何度か見かけたことはあるが、

コミュニケーションはほとんどない。



フジさんがお住まいのころは、毎朝のようにお見受けした。彼の立ち居振る舞いは、家庭や職場で話題になりもした。



磯野さんのご家族はにぎやかだった。たまにテレビで拝見する限り、みなさん歳もとらず健在のようだ。

某新聞の朝刊に掲載のマンガの話である。

起承転結のシャープさにうなずき、人間愛や社会評のモチーフには親近感を覚え、ハッとすることも多かった。また、オチが難解なものは、家庭や職場で究明し合い、



私自身の感性の乏しさ、視野の狭さを思い知ったこともある。

『となりのやまだ君』を読んでいるか、わが家の家族に聞いてみた。マンガ好きのむすめは、よく読んでいるらしい。息子と家内は、吹き出しの文字が多すぎるなど、私と同じような理由で、やはり読む気がしないという。読者の好みもあり一概にいけないが、朝の日課としては、絵柄や内容にシンプルさと爽快感がほしいと思う。

フジ三太郎やサザエさんにはそれがあった。私には生涯学習のよい教材で、自分の

生き方・ものごとのとらえ方などに、少なからず影響している。それにしても、作者の入力の労と出力の苦は、察するに余りある。

入力といえば、研究会の発表などを、うわの空で聴いていると睡魔が襲ったりする。また、後日のために録音しておいたものを再生してみると、想像以上に聴衆の雑音が入っていて耳ざわりなときがある。会場では気にもならなかった物音でも。

人間の五感は微妙だ。見ようとするものに焦点を合わせ、聴こうとするものに耳を傾けるなどして、はじめて見え、聴こえ、感じもする。人間は、大ざっぱでもある。自分に都合がよく、興味のある情報しか入力しようとしめない怠惰さがある。一点に集中しなければ、五感や思考・判断などいい加減なものだ。また、このいい加減さがあるからこそ、生きていけるのだろう。

出力の場合はどうか、不都合なことには昼行燈あんどんを装い、目立ちたいときには、出力過剰にもなる。人間のかわいい部分だ。

連休も多いというのに、することといえばテレビとゴロ寝。ストレスの発散は食欲と1本のビール(ラガー)。視野を広げるために行動を起こすには金がかかる。

ああ、蓄積していくのは中性脂肪ばかり。